

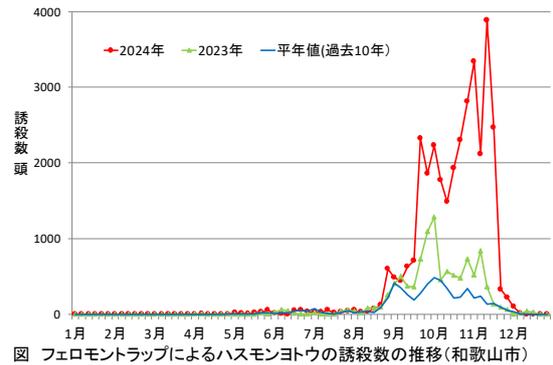
鱗翅目害虫分類とハスモンヨトウの防除対策

～ハスモンヨトウとシロイチモジヨトウの違い～

和歌山県農業試験場

2024年はハスモンヨトウの発生が多く、9月下旬からフェロモントラップの誘殺数が多い状態で推移し、現地ほ場でも多発が確認されたことから令和6年度病害虫発生予察注意報(第7号)が発表された。

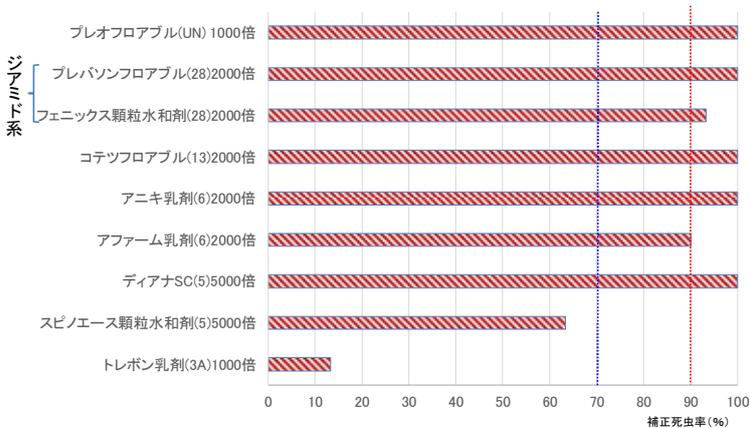
現地ほ場では、ハスモンヨトウとシロイチモジヨトウが同時発生していることが多いが、両種は有効薬剤が異なる。そこで、両種の判別のため形態等の違いと過去に実施した薬剤試験の結果を紹介するので防除の参考にしたい。



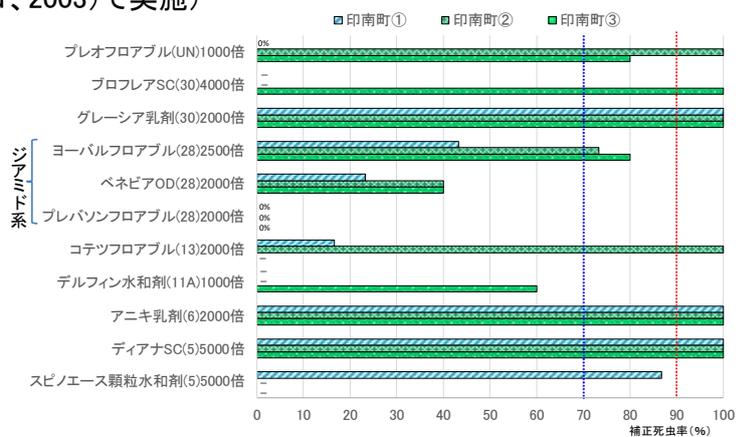
①形態等の違い

	成虫	卵塊	幼虫	被害(初期は集団で食害)	特徴
ハスモンヨトウ	 斜め(=はず)に紋が入る	 茶色の鱗毛 卵塊は大きめ	 頭の後ろに一对の黒い斑紋	 広範囲に食害 (白菜葉を多く生じる)	<ul style="list-style-type: none"> ○卵から成虫までにかかる日数は25℃で36日程度 ○9月ごろから発生が増加し、9～11月に被害が多い
シロイチモジヨトウ	 翅は灰褐色で円形の紋がある	 灰白色の鱗毛 卵塊は小さめ	 体色は淡緑が多い 横に白い線	 生長点付近を食害しやすい	

②薬剤試験 (試験はパクチョイを用いた葉片浸漬法(井口、2003)で実施)



※薬剤名の()内はIRACコード
※供試虫:2018年に年にスイカほ場から採集し継代した個体群
※殺虫効果は補正死亡率で判断し、90%以上を高い、70%以上で認められる、70%未満で低いとした。



※薬剤名の()内はIRACコード
※供試虫:印南①はスイカほ場、印南②③はエンドウほ場から2023年に採集し継代した個体群
※殺虫効果は補正死亡率で判断し、90%以上を高い、70%以上で認められる、70%未満で低いとした。
注:図中の“-”は未実施

- ハスモンヨトウは、スピノエース顆粒水和剤とトレボン乳剤の効果が低かった。
- シロイチモジヨトウは、ジアミド系のプレバソフロアブル、ベネビアODがいずれの個体群に対しても効果が低かった。
- また、プレオフロアブル、ヨーバルフロアブル、デルフィン顆粒水和剤、コテツフロアブルの効果が低い個体群も確認された。